



ざつがみ 雑紙を分別して、ごみを減らそう！

分別って、正直面倒だと思っていませんか？しかし、家庭から出るごみの約9割は「燃えるごみ」、そのうち約3割が「紙類」です。この中には、資源として再利用できるものが多く含まれているので、これらを燃えるごみで出してしまうのはとてももったいない上、燃やすにはコストも掛かります（1年間でおよそ10億円！）。

そこで今回は、紙類の中でも分別の進んでいない「雑紙」の手軽な分別方法をご紹介します。簡単ですので、ぜひ実践してみてください。

◆ざつがみ 雑紙とは



- 食品などの紙箱類
- ポスティングチラシ
- 包装紙
- 封筒（窓のビニールを切り取る）
- ティッシュ箱（ビニールは取り除く）など

❶ 例外

- ① 汚れた紙、② 臭いのついた紙、③ 銀紙などリサイクルに向かない紙は燃えるごみになります。

◆おすすめ分別方法

- ① ごみ箱を2つ用意する（紙袋でも可）。
- ② 並べて置いて、「ごみを捨てる時」「ごみ」と「雑紙」を分けて捨てる（家族みんなが分かるように工夫しましょう）。
- ③ 雑紙がたまったら雑誌などと一緒に束ねて、資源物の日に出ししましょう。



問 廃棄物対策課、牛久クリンセンター ☎ 8330・9333

うしく産3種のパスタのお味は？

2月25日と26日の2日間、東京都港区で「第4回全調協食育フェスタ」が開催されました。このイベントは、全国の調理師学校から構成される全国調理師養成施設協会（服部幸應会長）が主催し、食育をテーマにしています。

その中の地産地消物産展にうしくグリーンファーム株式会社が出展し、牛久産菜種油と、地場産小麦「ゆめかおり」でつくったパスタ

を紹介しました。パスタは、トマト味、バジル味、カレー味の3種類。調理学校や飲食業関係者に試食をしてもらい、手ごたえは感じられたようです。まだ試作の段階ですが、これから販売に向けて準備中です。また、同時開催の学生による調理技術コンクール全国大会決勝に、

学校法人晃陽学園つくば栄養調理製菓専門学校（ひたち野東）の学生2人が選手として出場しました。

当市にとつては、食文化に新しい風を吹き込む喜ばしいイベントとなりました。

みんなの農業 *うしくスタイル*



問 農業政策課

